

本日の原子力空母R・レーガンの米国への出航についてのコメント

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

共同代表 呉 東 正 彦

本日朝、米海軍横須賀基地を母港とする原子力空母R・レーガンは、燃料交換等のため米本国に向けて出航した。

しかしそれと交代に次の原子力空母G・ワシントンが、今年後半に横須賀に配備されることが、私達横須賀市民の声を全く聞かずに、一方的に発表されている。これは福島原発事故を受けて、原発再稼働が大きな争点となっている日本で、原子力空母の原子炉が少なくとも10年は稼働し続けるという 原発再稼働に匹敵する重大な提案である。

特に原子力空母R・レーガンは、昨年9月、7回にわたる出港予定の中止、変更事件を起こしており、この7回の出港予定の変更は、出港の数時間前に原子炉を起動させたが不具合が見つかった危険性を強く示唆しているが、米海軍は全く情報を明らかにしない。

また今年1月の能登半島地震と同様の三浦半島での活断層地震、あるいは南海トラフ地震等に原子力空母が見舞われた時、福島原発と同様の原子炉事故が起きない保障はない。

しかし今回の交代の際も、この重大な提案につき、原発とは正反対に地元横須賀市民の声がきちんと聞かれてこなかったのは、地元住民無視として、極めて遺憾である。

そこで原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会は、3月より『2024 原子力空母交代を問う市民アクション』をスタートさせたが、毎日続々と原子力空母交代についての市民アンケート結果が寄せられ、大きな広がりを見せている。

この市民アクションによって、この重大な原子力空母交代の是非や安全性に対する横須賀市民の声を、米国政府にも、日本政府にも強く発信していきたいと考えるものである。